

主題名 共に生きていくために

教材名 エイズと闘った少年
(参考資料:「朝日新聞」1990年4月6日)



人権学習の視点 個別的な視点「患者等の人権問題」

主題・教材について エイズは、正しい知識を持ち、適切な行動をとることによって、感染を回避できる疾病である。しかし誤った知識から、偏見や差別を生ずる恐れもあり、エイズに関する指導の重要性が高まっているところである。人権の視点から、また性に関する指導の一環として指導することにより、ライアン・ホワイト君の生き方に共感し、身近な問題として考えさせたい。

ねらい

エイズについて正しく理解する中で、エイズ患者に対する偏見や差別をなくし共に生きるために大切なことは何かを考える。

本時の展開

過程	指導内容	形態	主な学習活動	指導上の留意点	教材・教具	
導入	○学習課題を知らせる。	一斉	○学習課題を知る。 ○エイズについて知っていることを発表する。	○保健で学習した場合、そのことを思い起こさせる。 ○エイズに関連する本を読んだり、新聞やニュース等で知ったりしていることを出させる。		
展開	エイズって何だろう					 指導資料 P.77 (1) 資料 「エイズと闘った少年」
	○エイズがどんな病気か理解させる。	一斉	○教師の話の間中で、エイズがどんな病気か理解する。	○ふだんの生活ではうつらないことを知らせる。 ○指導資料P.77 (1) を参考にすることもできる。		
	新聞記事から、わかったことは？					
展開	○資料 (P.64～65) を読み、ということがあったのか事実在即して理解させる。	一斉	○資料を読み、ライアン・ホワイト君にかかわる事実を発表する。 ●13才でエイズにかかる ●原因は血液製剤 ●登校禁止 ●半年間、電話で授業 ●半分近い生徒の欠席 ●引っ越し ●受け入れた学校	○事実を確かめる中で、原因や周りの偏見に気付かせる。 ○周りの人の中にも、差別した人たちと支援した人たちがいることに気付かせる。	 ワークシート	
	差別した人たちと、支援した人たちの違いは何だろう？					
まとめ	○ライアン・ホワイト君を支援した人たちと差別した人たちの違いは何であったかを考えさせる。	個別 一斉	○ライアン・ホワイト君を支援した人たちと差別した人たちの気持ちを考えてワークシートに書き発表する。	○お互いの気持ちを考えることで、より自分に関わらせて考えられるようにする。 ○エイズを正しく理解することの大切さに気付かせる。	指導資料 P.77 (2・3) ○偏見や差別を解消するために、一人ひとりの行動が大切であることを理解させる。 ○指導資料P.77 (2・3), Mくんからのメッセージを参考にすることもできる。 ○本の紹介をする。 「エイズと闘った少年の記録」 「ぼくはジョナサン、エイズなの」 「父親になったジョナサン」	
	○ライアン・ホワイト君の生き方から共に生きるために大切なことは何かを考えさせる。	一斉	○これから自分がどのような行動をとっていかばいいのかを考える。 ○エイズの理解を深めるための情報を聞く。			

評価

エイズについて正しく理解する中で、エイズ患者に対する偏見や差別をなくし共に生きるために大切なことは何かを考えることができたか。